

ビブリオバトル①

10月20(土)開催

今回は、五反野にある喫茶店「カフェテラス絵瑠座」で、3名でバトルを行いました。参加したバトルの方は、なんとエジプト在住の方！アラビア語で書かれた絵本を紹介されました。

最初を飾ったのが『君の脾臓をたべたい』(住野よる／著 双葉社)です。読み終わった後もう一度読むと、より感動できるという言葉に参加者も興味深々でした。

次は『いちご同盟』(三田誠広／著 集英社)中学生の少年少女の物語である本作。読んだら題名の意味がわかるので、そこに注目して読んで欲しいとの事でした。

そして最後は、『魔法のランプ』(著 alimodae)魔法のランプで願いを叶えてくれる話、とは少し違って、魔法の力は最小限に、自力で困難を突破していくというパロディーになっています。色彩豊かに描かれた、日本ではなかなか出会うことのできないこちらの本が今回のチャンプ本となりました。(白藤)

ニッポンの文化探訪

師走は新年を迎える準備で大忙しかと思います。そして1年最後の日、大晦日に鳴り響くのが除夜の鐘。この鐘の音を聞いて、「今年も終わりだなあ」と感じる人も多いのではないのでしょうか。

除夜の鐘を108回つく理由には諸説あるようですが、一般的には人間の煩惱の数と同じで、これを打ち払うためだと言われています。その年の間に107回つき、最後の1回は新年を迎えてから鳴らすことが多いようです。

『じよやのかね』は、お父さんと男の子が、除夜の鐘をつきに出かけるおはなしです。白黒刷りの細かい版画で描かれており、大晦日の厳かな雰囲気を感じられます。また、男の子が「12じまであとなんぶん?」と何度も聞く様子から、ワクワクと緊張感が入り混じった気持ちがよく伝わってきます。

こたつで年越しそばを食べながらのんびり新年を迎えるのも良いものですが、1年の締めくくりに、自分で鐘をつくのも特別な思い出になります。(松野)

やよい TOPIX 本と出会う。



①



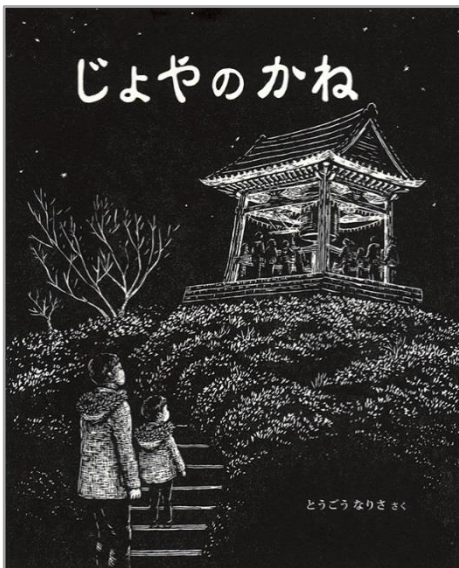
②

『手妻のはなし』
失われた日本の奇術
藤山新太郎／著 新潮社



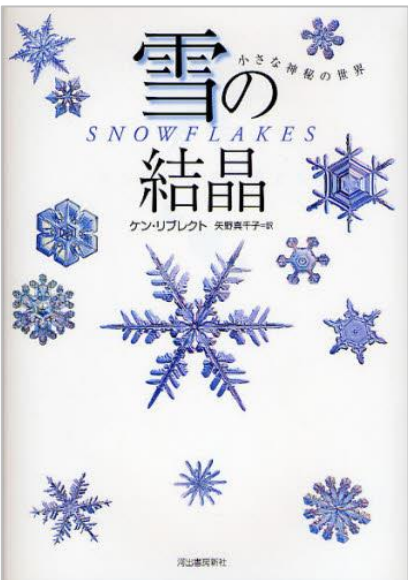
③

『じよやのかね』
とうごうなりさく
福音館書店



④

『雪の結晶』
小さな神秘の世界
ケン・リブレクト／著 矢野真千子／訳
河出書房新社



読書の窓

②

12月3日は奇術の日です。マジシヤンの「ワン、ツー、スリー」という掛け声をもじって、1990年に日本奇術協会が制定しました。

今回は奇術の日にちなんで本を紹介しますが、皆さんは「手妻」という言葉をご存知でしょうか？手妻とは、てづまと読み、日本人が考え完成させていった手品のことです。言葉自体は江戸時代に生まれたものですが、さまざまな呼ばれ方で奈良平安時代から存在していました。

本書では呪術、宗教的な面を持っていた時代から、大衆へと親しまれていった江戸時代、世界から注目されていった明治時代、そして西洋奇術に押されて衰退していった大正時代以降までの手妻の歴史を書いていきます。著者自身がプロマジシャンで手妻の継承者であるため、技術的な話も読みごたえがあります。特に代表的な手妻である「水芸」「蝶」を現代の人びとに受け入れてもらうために改良を重ねた話では、実際にその手妻を見てみたくなります。歴史と魅力に溢れる手妻の世界を味わってください。(生盛)

再生館 セレクト ④

こちらのコーナーでは、あだち再生館のおすすめ講座と、講座に関する本を紹介します。

12月のおすすめ講座は、冬休み親子特別講座「雪の結晶をつくる」です。

今回紹介する本『雪の結晶』には、色々な種類の結晶の写真が載っています。結晶のでき方なども図を使ってわかりやすく解説しています。同じ形は2つないと言われる結晶。とても神秘的ですね。

冬休み親子特別講座「雪の結晶をつくろう」

- 日時：12/23(日)午後1時～3時
- 対象：区内在住・在学の小学生と保護者
- 内容：気象予報士の指導のもと、ペットボトルで雪の結晶作り／風速測定体験など、天気を通じて環境問題(地球温暖化など)について学ぶ
- 定員：15組(1組3人まで 抽選・当選者のみハガキで通知)
- 費用：1組200円
- 申込：電話・窓口または全員の氏名(フリガナ)、学年、電話番号、「雪の結晶を作ろう」をハガキ・ファックスで送付
- 期限：12/16(日)必着
- 場所・問い合わせ先：あだち再生館(月曜日、祝日休館)
〒120-0011 中央本町2-9-1
TEL: 3880-9800 FAX: 3880-9801